

国語 第4学年 表し方のくふうを考えよう / 広告を読みくらべよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある7月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「誰に何を伝えるための表し方か」を問い、広告を目的や相手に照らして読み比べ、伝え方の工夫を説明する。広告の比較と説明の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)ウ	ウ 目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)ア	ア 記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に必要な調べ方や記録の仕方を確かめ、情報を扱う活動で使う。思考・判断・表現では、広告を目的や相手に照らして読み比べ、伝え方の工夫を説明する。交流や試行の前後を比べ、広告の比較と説明を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①本時に必要な調べ方や記録の仕方を確かめ、情報を扱う活動で使っている。〔知識及び技能〕(2)イ)	①「読むこと」において、広告を目的や相手に照らして読み比べ、伝え方の工夫を説明している。(C(1)ウ・C(1)オ・C(2)ア)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○必要な情報を選ぶ読み方に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す広告の比較と説明の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～5 （本時は5時）	○広告を目的や相手に照らして読み比べ、伝え方の工夫を説明する。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○誰に何を伝えるための表し方かを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	6	○広告の比較と説明を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：広告を目的や相手に照らして読み比べ、伝え方の工夫を説明することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「誰に何を伝えるための表し方か」 【めあて】必要な情報を選ぶ読み方について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・目立つ言葉以外にも確かめる情報があった。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。目立つ広告ほど情報が正しいと考える姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 （ 分）	2 広告を目的や相手に照らして読み比べ、伝え方の工夫を説明する。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「誰に何を伝えるための表し方か」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・目立つ言葉以外にも確かめる情報があった。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	目立ち方と内容を分け、必要な情報の有無を確かめる。知識・技能では、本時に必要な調べ方や記録の仕方を確認、情報を扱う活動で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①広告を目的や相手に照らして読み比べ、伝え方の工夫を説明している。(C(1)ウ・C(1)オ・C(2)ア)（本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明）
まとめ （ 分）	5 広告の比較と説明を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】広告の言葉や配置を、伝えたい相手と目的に結び付けて比べると、それぞれの表し方の工夫を説明できる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。誰に何を伝えるための表し方かへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（広告の比較と説明と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には必要な情報を選ぶ読み方を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に広告の比較と説明で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、目立つ広告ほど情報が正しいと考えることである。目立ち方と内容を分け、必要な情報の有無を確かめる。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

広告の比較と説明

「誰に何を伝えるための表し方か」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。目立ち方と内容を分け、必要な情報の有無を確かめるための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_4_202401.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重